

平成 25 年度第 1 回第 2 次山県市総合計画策定審議会 会議事録（要約）

日時：平成 25 年 10 月 7 日（月）午後 1 時 30 分～

場所：山県市役所 大会議室

出席者：委員（敬称略） 大野朝義、古田登、丹羽英之、平田久美子、大沢登美子、佐野恵津子、
藤田昌子、江崎由里香、（横山哲夫 冒頭のみ）
：事務局 久保田企画財政課長
石神企画財政課主幹
大西企画財政課係長

欠席者：2 人 上野欣也、横山哲夫

○次第

1. 開会
2. 第 2 次山県市総合計画策定審議会委員の委嘱
3. 市長あいさつ
4. 会長、副会長の選任
5. 第 2 次山県市総合計画策定の諮問
6. 議事
 - 1) 第 2 次山県市総合計画策定について
 - 2) 山県市まちづくり市民意識調査の結果報告について
 - 3) 策定方針について
 - 4) 策定スケジュールについて
 - 5) その他
7. 閉会

○開会

○第 2 次山県市総合計画策定審議会委員の委嘱

○市長あいさつ

それではひと言ごあいさつを申し上げます。ただいま委嘱状の交付をさせていただきました。皆様方にはお世話になるがよろしくお願い申し上げます。私が申し上げるまでもなく山県市は平成 15 年に合併をし、第 1 次山県市総合計画は 17 年から 26 年までの 10 年間の計画を策定し、それぞれ各種の事業を実施してきました。

この間、東日本の大震災、政権交代、人口の減少、市内を見ても少子化、超高齢化が著しく進んできたことが実感として感じられます。また一方では防災意識の向上、防災に対する対策、エネルギー政策、そして地方分権として国・県から分権に関するいろいろな形での権限移譲もあり行財政改革も積極的に推進してきました。そうした中で自主性、自立性の確保など様々な課題に今後もより一層、的確に事業を推進していく所存であります。

合併してこれまで、130～140 億円ほどの特例債を利用し美山中学校、高富中、クリーンセンタ

一といった主にハード事業を積極的に推進してきました。合併した 15 年には 231 億円の借金であったが、特例債を利用した事業を推進してきたため、21 年度には借金は 368 億円と 140 億円ほど膨らみ、22 年、23 年、24 年と約 36 億円の借金の返済を行った。そして今年度は山県市の一般会計が 127 億弱のうち 27 億円強を返済します。ただし、今が借金を返すピークであり、これから 5 年間ほどで 15 年の合併時の状況に戻るのではないかと考えている。

借金を返しながらのこれから 10 年間の総合計画の策定になる。財政的には非常に厳しいものがあるが、次の世代にしっかりと今の山県市の状況を引き継いでいくためには、計画とたゆまない行財政計画を進めていかなければならない。そういった状況を市民の皆様にも少しでも知っていただく機会を提供することが必要だと考えている。先々週の土日にこの部屋で事業仕分けを行っており、その中で私が最後に市民の皆様にお聞きしたのは、山県市の今の財政的な状況が心配だからといった思いから事業仕分けに参加されたという方が多かった。共感をいただけるようなスタンスで市民の皆様にもしっかりと説明をしていかななくてはならない。そういったことを踏まえ、これから 10 年間の総合計画を策定する。皆様方にはそれぞれの立場で地域活動を通じ、山県市行政運営にご協力いただいていることを含め、感謝を申し上げ、簡単ではあるが挨拶とさせていただきます。この後、県の方で抜けられない会議があるので失礼させていただきます。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございます。では、市長退席させていただく。お待たせいたしました。では、1 回目ということで私どもの方から皆様方に十分な説明をしていないので、説明をさせていただきます。

〈事務局より資料 1 説明〉

○会長、副会長の選任

【事務局】

では、早速ですがまず条例に従い第 5 条、会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。会長の選任について意見はあるか。

【委員】

第 1 次策定に携わっておられる丹羽さんにぜひお願いしたい。

【事務局】

丹羽さんをお願いしたいというご発言があったが。

【委員】

連合自治会の大野さんが良い。

【委員】

前からいろいろな役職を歴任されており、自治会連合会長も経験していてよくご存知の丹羽さんが良いと思う。お願いしたい。

【委員】

同じ意見です。

【事務局】

どうでしょうか、強く丹羽さんという意見が出ている。他の方、どうか。

【委員】

基本から言ったら自治会連合会長の大野さんではないかと思う。

【事務局】

男性ばかりの意見ですが、女性の方向か。

【委員】

他の条例の方も結構携わっていられますし、私は丹羽さんが一番良いと思う。

【委員】

皆さんが私で良ければということでさせていただく。

－拍手－

【事務局】

では満場一致ということで丹羽委員さんには会長をお願いする。では、いったんまず会長に出席についていただいて、ご挨拶いただく。

【会長】

皆様と一緒に山県らしい総合計画になるといいなと思うが、市長からも冒頭にありましたようにこれから 10 年大変不透明かもしれないが、ぜひ皆様と一緒に山県市の総合計画を作っていきたいと思う。よろしく願いたい。

【事務局】

ありがとうございました。それでは、バトンを渡してもかまわないが、議事とは少し別の部分があるので当面私ども事務局の方で進行させていただく。次に副会長だが、私ども事務局の思いとしては男女共同参画ということで女性の方をお願いしたい。私こそという方があれば立候補もかまわない。会長何か意見はあるか。補佐をされる方ということだが。

【会長】

できれば 3 号委員の藤田さんをお願いしたい。

【事務局】

皆さん、よろしいか。

－拍手－

【事務局】

すみません、また無理を言う。では席を前の方へ。では改めまして藤田委員にご挨拶をいただく。

【副会長】

この席に着くのはおこがましいのですが、今会長さんからご紹介をいただいた通り岐阜女子大学で教員をやっている。山県市民なので皆様のお役に立てるよう努力したい。よろしくお願いします。

－拍手－

○第 2 次山県市総合計画策定の諮問

【事務局】

レジュメに従うと次が総合計画策定にあたり、先程条例で申し上げたとおり、市長からの諮問ということで本来であればこの場で市長から会長宛に正式に諮問書をお渡しする予定だが、どうしても都合が合わず本日は市長より諮問として文書をお預かりしている。正式にはまた諮問書は会長に直接お渡しさせていただく。今日は資料 2 の諮問書に正式な会長名を入れて市長より別途諮問書をお渡しするのでお手元の資料で諮問があったということでご理解いただきたい。代読しましょうか。

〈事務局より資料 2 の説明〉

【事務局】

ということで諮問がなされたという事でご理解をいただきたい。

それではレジュメに従ってただいまから今日の議事を進めていく。ここからは会長に議事の進行をお願いする。

議事

○山口市まちづくり市民意識調査の結果報告について

○策定方針について

○策定スケジュールについて

【会長】

ではレジュメにそって進めさせていただく。まず第2次山口市総合計画策定について特に何かあるか。

【事務局】

ひと通りお配りしてある資料の説明をさせていただく。お手元にお配りしてある資料、それから第1次総合計画の全体的な計画と後期基本計画、今日はお配りしていないので後ほどお渡しする。

〈事務局より資料3、4、5の説明〉

【委員】

ここにはどうしてアンケートは無いのか。

【事務局】

アンケートは去年実施済みということで、最後に資料6になるが現時点では既に終わっているが無作為抽出した市民2,100人、回答は少なかったがそのアンケートと団体ヒアリングで今度ワークショップをやるということで具体的な案はこれからだが、まずこの人口フレームもこれからコンサルさんと相談しながら作っていくが、ゴールから見ていくと最終的には来年度の3月の議会での審議、どこまで議案として上げるかは別としてここがリミットだと考えている。そこから遡り、下から4番目のパブリックコメントとしてあるこちらの案をまとめたものをホームページ等で公開し、意見をもらい、議案をまとめ、議会にかけるという流れが後ろからくるとそうなる。

となると、年内26年中にはほぼこの1冊が出来上がらないと考えると、あと1年ちょっとしかないというタイトなスケジュールになっている。仮に9年とすると9年の基本構想、5年の基本計画を持っており、まず将来の先読みをしたいので基本構想が先行することになる。基本構想が概ねできた段階で何らか議会との対話をしてくれと議会も思っているので議会調整も途中で来年度のどこかで設けたい。これから少し難解になる予定ではあるが、6回ほど話し合いをしていただきたいと思います。その都度資料は用意するので忌憚の無いご意見をいただきたい。少しわかりにくいとは思いますが今お配りした総合計画について全く初めてという方もいらっしゃると思われるので、少し見方を説明させていただく。

〈事務局より総合計画の見方の説明〉

【会長】

今まであるのは第1次総合計画で現在後期基本計画の5年計画が26年度で終わるので新たな計画を作ることだ。体系図を見ていただくと順序立ててきちんと整理されているので見ておいていただくと良い。計画期間をどう区切るかというのが大きな課題である。委員会では前期5年、後期4年ということで出てきているので、これも議論する必要がある。スケジュール的には26年度中には総合計画を策定したいということで予めご承知おきをいただきたい。

【委員】

これを初めて目にしたのだが、どの範囲まで配布されているのか。

【事務局】

この分厚いものは具体的には関係者にしか配布していないが、ネット上では全部見られる。この膨大なものをこの時には1,000部弱作ったと思う。議会には配布したが、市民の皆様にはこのようなダイジェスト版を全戸配布している。このように冊子として当時かなりお金をかけて作ったが、これを全戸配布するのはかなりお金もかかるので、第2次ができた段階でダイジェスト版

もしくは広報の特集で最低2ページから4ページほどの紹介はしたい。もちろん必要に応じてお配りするし、ネット上で見られるようにもする。

【委員】

商工会には必要だと思う。

【事務局】

商工会には配布してある。主要なところについては社協等にも配布している。

【会長】

計画期間について、5年4年で良いという経緯は何かあるか。

【事務局】

冒頭で少し触れたように日本の地方自治制度は議員も市町村長も4年の任期、4年ごとに見直していくと良いのではないかと時代になっている。だからこの計画期間もやはり4年が良いのではないかとというひとつの考え方がある。現実的には10年先を見据えるのが大変なので4年4年にするにあたり、まず前期は第1次総合計画の基本を踏まえ5年とし、その後は4年にシフトし4年ですずっと行きたいというのが事務局の思いであることをご理解いただきたい。

【委員】

実施計画は5年になっているが。

【事務局】

すみません、配布資料では実施計画は5年になっていますが4年のプリントミスで、事務局では3年か4年と思っている。訂正しにくいですが4年だと理解して欲しい。次回はもう少しきちんとしたものを。

【委員】

5年の方が先程の話にマッチするのではないか。

【事務局】

正直、今まで3年であるが4年は難しい。今ちょうどまもなく26年度予算を作ろうとしているところだが、3年先がなかなか見えない中にあり、4年後と言うと正直、長ければ長いほど難しいので少し保留にしていきたい。来年度から消費税8%なる。2年後に今度は10%にするという法律は通っているものの、首相はまだ判断していないので、それも踏まえるとなかなか3年先を見据えるのは難しい。4年になるとますます難しい。言葉として方向性は見いだしていかないといけない。財源的なものだとか、今後いろんなことを議論していただいて私ども執行部側として現実に作れるのかということも意見は申し上げて頂きたい。

【委員】

5年は長いということですね。

【事務局】

そうです。

【委員】

先程、3年5年とおっしゃったのはこれはどういうことか。

【事務局】

今が3年の実施計画を作っている。この資料が5年になっているので3年から5年と言ったのですが、3年か4年と思っている。

【会長】

今の5年の基本計画だが3年のローテーションの実施計画で最終年度は合っていない。そういう不合理もある。基本的には5年、でも3年の実施計画では6年になってしまう。もちろん毎年見直していくのだが、3年ごとにマイナス1歩ローリングしていくのが普通である。

【委員】

定住人口はわかるが、活動人口、これは見込むのか。

【事務局】

活動人口について説明させていただく。今まで人口フレームということで先程説明があったが、定住人口ということでこれまでの総合計画ではそういったものを目標として掲げてきた。要はま

ちの活力として、ひとつの見方として人口というものが使われている。それがいわゆる定住人口である。ただやはり少子化であったり、人口の減少が進んできているので一概にまちの総人口だけでまちの活力がはかれるかというところがひとつある。なかなか人口減少を総合計画の中で謳うとどうしても減少、減っていくという部分が出てきてしまうが、今度はそういった減っていくところを見るのではなくまちの活性化であれば、例えば地域の方々、ボランティアの活動、そういったところもまちの活力である。今回その活動人口というのも書いているがボランティア活動やまちづくりに関する活動、この参加者の方の活動状況。例えば何かボランティア活動で活動されている方々が何名いるのか、これもひとつのまちの活力を表す数字になると計画の中で謳っていきたいということで活動人口というものを今回の指標の一つとしてご提案させていただいた。併せてご紹介させていただくと、交流人口というのは市外から就労・通学する方と観光客の方。実際にこの街に住んではいないが、他の市町からこのまちにやってくる方。こちらまの活性化を見るひとつの人口の表し方にもなるので今回は定住人口プラス交流人口・活動人口としてまちの賑わいを表す人口指標を設定できるということで提案した。

【委員】

活動人口は比較的新しい言葉ですね。

【委員】

ではまず最初に構想から考えていきたいと書いてあるので、とりあえず構想は 10 年のスパンという形になる。9 年か。

【事務局】

そう思っている。

【委員】

9 年も 10 年もあまりわからないが。

【事務局】

なぜ 9 年が良いのかという理由はまた明確に整理してお伝えさせていただく。

【委員】

10 年見据えるというのは、今のこの社会の変動の中では難しい。それで 9 年となれば多少気持ち的に見えるかな、生きてるかなという感じになるので、社会の変化とともにこれは短くしている方が良いのではないかな。そして、交流人口・活動人口とは素晴らしい意見で、少しは減少の暗いイメージから活気をもらえるような今後の活力をもらえるような人口。やはりこの人口を増やすということは今後の計画にぜひとも含めていただきたい。とても良い提案だと感じた。だから 9 年で良いと思う。

【会長】

ただ基本理念に則って作る時に、行政の 1 スパンは 10 年が普通である。計画の中で 4 年や 5 年でそれに加えていくというのはどういうやり方だろうか。さらにそれを詳しくいうのが実施計画ということなので実際は 9 年でも 10 年でもあまり変わらないのではないかな。それよりも 4 年ずつにするのであれば 8 年でも良いのではないかな。これについては資料をせっかくいただいたので、これについて少し議論をしたい。資料は事務局の方から出てくるので、今日はさわりだけということだが、もう少し議論をしたい。先程の説明にもあったが、計画の策定体制の中に我々は審議会であるが庁内組織として委員会もあるしプロジェクトチームもあるのでその辺でもずいぶん練られて上がってくると思うので、それを踏まえてこの次は本格的に議論したいと思っている。

【委員】

審議会と策定委員会とプロジェクトチームがあるが、この 3 チームでの調整はどうなるのか。

【会長】

概ね、委員会等で練られたものが上がってくると思う。

【委員】

それを審議するわけですね。

【事務局】

資料 6 の説明を十分しなかったが、一番上がその関係になり、ちょうど 10 月頃にキックオフになっているが、プロジェクトチームから矢印が出ている。最初の第 1 回が 9 月下旬に行ったもの、策定委員会が第 1 回 10 月 2 日である。プロジェクトチームで検討したものをまず庁内会議で意思統一し、最終的にこちらへ上げてくる。次回はこの課題検討、人口フレームの確認、第 1 次の評価などについてということで、12 月の中旬にプロジェクトを開いて年末には庁内意志を統一し、年明けにでもこの審議会ができないかということで、常にこちらへお諮りする前に企画財政課だけの思いではいけないので、組織を越えてプロジェクトで話し合い、庁内で意思統一をしてこちらへ出してくるので、常にそういうスパンでいく。

【委員】

このスケジュール表を見てもらうと、だいたい 3 ヶ月に 1 度の割合だが、中身は濃くなってくるので事前に資料が配布されると思うので目を通して会議に臨んで欲しい。

【事務局】

あと今年度 26 年度は 1 月 3 月の予定にしているが、来年度 1 回目が 9 月ですが、もう少し前にやらなければならないかと思う。来年度は 3 回になっているが、回数も増やさないといけないかとは思っている。

【委員】

半年経つと忘れてしまうのももう少し詰めた方が良くかと思う。

【事務局】

これは調整する。

【会長】

ひょっとすると最終の合意形勢をいただく前くらいに少し詰めて連続になる場合があるかもしれない。スケジュールに関して言うと議会の予定が年明けてすぐの 1 月。せっかくなのでできるだけ多くの方に集まってもらいたいので、もし今この辺に予定があれば教えていただいて皆さんで調整したい。

【事務局】

1 月 17 日の金曜日はどうか。ここで調整する。第 1 週はまだお休みで、月曜日は難しく、まだ幕の内である、10 日。次の 13 日は祝日なので一番早くて 17 日ということになる。

【会長】

では予定として 17 日でお願いしたい。時間は 13 時半からか。

【事務局】

昼からの方が皆さん良いということだが、ご希望があれば。

次回は資料を事前に配布することと、実施計画のリストも配布できると思う。他町村の計画年なども調べておくので資料として出させていただきます。

ただ、今が見直し時期なので他町村はわからない。悩んでおられるところなので他市のものはあまり参考にならないかもしれない。

【JP】

一応県内だと 4 年 4 年で計画を作られているのは多治見市だけ。ただやはり、他の県内を見ても 5 年 5 年というのが基本的には多い。これまで行政計画として 5 年 5 年で来ていたこともあり、なかなか変えづらい部分もあるのが事実。市長さんの任期という形で合わせる動きは確かに近年増えてきている。やはり市長さんが掲げるマニフェストと総合計画との整合性を調整していく上で今、特に 4 年 4 年という形で動かす自治体さんが多くなっていることも事実ではあるが、市長さんの任期もやはり途中で退任される方もいらっしゃることも事実であるので、5 年 5 年でも良いのかもしれないし、議論がまだ続く部分でもあるし、そういった状況もある。

【委員】

この計画の評価をしないと、どの程度プランに沿って実際できているのか。それによって施策もかなり変わってくる。それも少し考えていただきたい。

【事務局】

資料 6 ですが各種調査でトップヒアリングしてある次に現行計画の評価というのがあり、これ

は毎月シートを各課に配布し、その結果を取りまとめて現行の計画の評価を次回の会議には出せるよう予定している。

ちなみに岐阜市の基本構想は期間を定めないとしている。

【会長】

4年というのは新しい、今までは全部5年である。

整理はしなくてはならないが、果たして9年でも10年でもかまわないが、10年として前期をこのようにやりました、今度は後期をとの10年スパンが良いのか、10年先を見据えつつ4年なり5年で作ったとして、5年経ったらまた新たに10年先を見据えつつ5年間の計画を作っていく方が現実的なのかという気がしないでもないが、そんな括り方はしないのか。

【JP】

基本構想というのが本当に大きなところの考え、概念的なところに近いので、自治体さんによっては、愛知県田原市は非常に長い構想で、その中で基本計画というのを5年くらいのスパンで見えていくといった形だったかと思う。

【委員】

ワークショップを2回計画されているようだが、参加された方の中で特に熱心な方がいらっしやった場合、審議会の参加ももちろん、どのように決められるのか。

【事務局】

ワークショップは一般の方なのだが、先々廻行われた事業仕分けの判定人の方2,000人を抽出して30人くらいの方が応募された。その30人の方にワークショップに参加していただけるようお願いしたがなかなか都合が合わず、参加が10名ほどになるかと思われたので、自治基本条例策定委員の方にもお願いし、ワークショップを開催する予定である。1回目のワークショップを踏まえて、2回目についてはもう一度事務局で話します。

1回目は市の良い点悪い点等を出してもらい、2回目はそれにより、活動人口・交流人口をどう増やしていけばいいのかというワークショップにしたいという思いがあるので、できれば1回目の方との方は同じ方が良いでしょうが、なかなかそういう風にはいかないかと思っているが、とりあえず第1回を開いてみてと思っている。

【事務局】

事業仕分けは土日なのでサラリーマンも来ていた。

【委員】

日中開催か。

【事務局】

平日の昼間なので、やはり夜にした方が良かったか。

【委員】

本当に熱心な方がワークショップに行かれて熱心に議論されれば良いが、平日の昼間だとどうしても限られてくる。

【事務局】

開催日時については第2回から検討させていただく。

【JP】

簡単にご説明させていただく。今回、一番最初の第1回についてはまちの良いところ悪いところについてお話を聞かせていただくというテーマでさせていただく。そこで出していただいたまちの良さ、良いところは伸ばし、継続して続けていきたい。悪いところは改善していかなければならない。まず皆さんに良いところ悪いところを出していただき、良いところが出てきたら、それに対する市民活動、活動人口というのは要するに市民活動に対する協力者の人口なので、良いところを伸ばしていくためにどういった活動があるかを今度は考えていただきたいという形で第2回に持っていく形になる。悪いところを出していただくのは、改善すべきところなので、それに関する市民活動、要は協働といった部分になってくるのだが、そういった視点で意見を出していただく。今回、計画作りで最終的な計画で少し事務局さんとお話させていただいているのは、この計画の中に市民の協働の種と芽を付けていきたい。種というのはアイディア、市民さん

が協働してこういったことをしていくと良いのではないかと、それを伸ばしていくことでまちがどんどん賑やかになっていくのではないかと。今、市民と行政が協力して活動している部分があると思うが、それはすでに芽が生えているという状況。その芽を伸ばしていくといったところで計画作りを進めていければという形でお話させていただいている。いわゆるワークショップの1回目は、この種を考えるために皆さんに意見を出していただく。そのためにまずまちの良いところ悪いところを共有し、それに対する市民活動のアイディアを出していただいたものを種として計画の中にも謳っていき、計画を見ていただいた方がこういったことをやっていこうという気持ちに繋がっていければという風に思っている。簡単ではあるが第1回・第2回のワークショップはそういったところで考えている。それが進んでいくと、活動人口が上がっていくということである。

【事務局】

本当はこの会場でやりたかったが、もう押さえられてしまっていて、なかなか広い会場がなかった。高富中央公民館だと駐車場が狭く、下から車を置いて上がっていくのは大変かと思い、美山中央公民館だと駐車場が広く、いろいろな施設も整っているのでそちらにした。

【会長】

その他何かありますか。

今日は最初ということで特に委員に委嘱をされたということで、ご理解をいただきたいと思う。いろいろな資料も出たので少し目を通していただいて次回はある程度素地が出るかなという段階で議論に入っていきたい。委員会等で議論された実際の資料がどんどん出てきますので、それも含め次回しっかり議論をしていきたいと思うのでよろしくお願いします。本日はこの程度でとどめたいと思う。良いか。

【事務局】 ありがとうございます。

○閉会